

弟子たちの再出発Ⅰ

(マタイ28・1～10)

一、「ここにはおられません」

1節をご覧ください。へさて、安息日が終わって週の初めの日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った。とあります。週の初めの日の明け方は、今日に換算するなら日曜の明け方になります。女性の弟子たちが——福音書によって人数が異なりますが——、主イエスのご遺体に香油を塗り、丁重に葬るために墓に行きました。彼女たちは——男の弟子たちもそうなのですが——、次のように受け止めていました。「神の子イエスは死んだ。イエスがメシア(すなわちキリストである)と望みをかけていたのに。これですべてが終わった」と。

そのように思っている女たちに御使いが現れ、語りました。5節、6節です。御使いは女たちに言った。「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められたいた場所を見なさい。」と。

私たちが探しているお方は、死去したイエスではありません。あるいは、生前に残された、主イエスのことばの

数々でもありません。神によってよみがえらされ、生きておられる主イエス・キリストです。

二、「ガリラヤで会えます」

7節を見てまいります。御使いのことばの続きです。へそして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。「イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます」と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。」とあります。御使いが語った、ガリラヤで死人の中からよみがえられたイエスに会える、ということばですが、どういう意味なのでしょう。新改訳2017は、へいいですか、私は確かにあなたがたに伝えました」と意識して、「あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます」を強調しています。

彼女たちが、御使いから聞いたことばを弟子たちに伝えようと走って行ったことばです。主イエスが彼女たちの前に現れて、言われました。10節です。イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。」と。そうしますと、「ガリラヤで主イエスに会える」がどういう意味なのか、気になってまいります。

三、弟子たちのガリラヤ

ガリラヤで会えるとは、どのような意味なのでしょう。ここからは、やや想像力をふくらませて読んでみたいと思います。ご存じのように、ガリラヤは弟子たちが主イエスと出会った場所でした。ガリラヤ出身の弟子たちは、ガリラヤで主イエスから声をかけられ、それまでの仕事を辞めて主イエスに従いました。言わば、弟子たちにとっての出発点でした。私たちに当てはめるなら、主イエス・キリストと出会ったところ。弟子たちにとっての出発点はガリラヤであって、エルサレムではなかったと思われ。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネと、四つある福音書で、主イエスが復活された後、ガリラヤに戻ったことに触れていないのは、ルカの福音書だけです。ルカの福音書、及びその続編である「使徒の働き」を見ますと、弟子たちの出発点がエルサレムであったように書かれています。ですがその理由は、ルカが異邦人キリスト者であったからなのかも知れません。ルカは主イエス・キリストの生涯についてしっかり調べ、緻密に記しましたが、なぜか主イエスが復活された後、弟子たちがガリラヤに戻ったことを記しませんでした。ルカが福音書を発行するに当たり、底本にしたと考えられるマルコの福音書に記されているにもかかわら

ずです。書かなかったのは、意図的と思われ。ルカによれば、弟子たちはずっとエルサレムに留まっていたように読めます。ですが、マタイの福音書によれば、一旦はガリラヤに戻ったのでした。また、ヨハネの福音書21章によれば、ペテロを始めとする弟子たちは、テイベリア湖、すなわちガリラヤに戻ったことが記されています。ペテロは「私は漁に行く」と語り、他の弟子たちは「私たちも一緒に行く」と言いました。彼らは、ガリラヤの漁師に戻ろうとしたのでした。考えてみれば、ペテロたちは復活の主イエスに出会っていました。にもかかわらず、主を見て喜んだだけであったということになります。ですが主イエスは、ガリラヤで今一度弟子たちを取り扱われたことを、マタイの福音書が、そしてヨハネの福音書が語っています。その後、弟子たちはエルサレムに戻ったのでありましょう。こうして「使徒の働き」1章につながります。皆さまにとってのガリラヤはどこでしょうか。それは、だれも消すことのできない過去です。過去をうやむやにしてはなりません。私たちの過去には、良いことも醜いこともあったはずですが、そのことを通して主イエス・キリストに出会ったなら、そこがあなたにとってのガリラヤであり、信仰の出発点であり、記憶から消してはならないところになります。